

青いトラック

八街市立八街北中学校 三年 興田 夏瑚

青いトラックを見るといつも思い出す事があります。それは、中学一年生の春、私の中学校の近くで小学生を巻き込む悲惨な事故があったことです。彼らは、私の通っていた小学校の児童たちで、周りには彼らを知っているという人もたくさんいました。私には、被害者家族の悲しみの全てを図り知ることはできませんが、身近な場所で身近な人たちが事故に巻き込まれたという事実には恐怖と悲しみを覚えました。

その後、市の事故対策としてガードレールが設置されたり、スクールバスが運行されたりしたことにより、安全に登校できるようになった場所もありますが、まだまだ対策が行き届いていないところもあります。

しかし、この事故は、道路環境が原因となり起こったものなのでしょうか。運転手の人として、または社会人としてのモラルが欠如していたのではないのでしょうか。

皆さんは雨の日に運転するとき、どのようなことに気をつけていますか。私は雨の日に登下校する際、何度も車に泥水をかけられます。狭い道ではありますが、可能な限り端に避けています。それでも泥水をかけられてしまいます。

そもそも車の泥はねは、道路交通法で定められた義務違反に該当する行為なのです。つまり、運転手には泥水等を歩行者にかけないようにする義務があります。しかし、私が言いたいのは、法的な問題ではなく、この行為はそもそも人としてのモラルに反していないかということです。運転手は歩行者の立場に立って運転できているのでしょうか。私はまだ泥水をかけられるだけで済んでいます。汚れた服は洗えば済みます。しかし、これが更にエスカレートしていくと、またあのような事故に繋がらないかと不安になります。

これらのことを考えると、あの事故だけに関わらず、今、日本中で起きている交通事故の大きな原因は人としてのモラルや思いやりの欠如にあるのではないのでしょうか。つまり、運転手が周囲の歩行者や車の動きに注意したり、

思いやりや譲り合いの気持ちを持ったりさえ出来れば、防げる事故がたくさんあるのではないかと思います。

また、事故が起きる原因は運転手の資質だけではなく、私たち歩行者にも原因があると思います。交通事故が起きたとき、車を運転している側に多くの責任を負わされますが、歩行者が歩きスマホをしたり、無理な横断をしたりしていたらどうでしょうか。歩行者も周りをよく見て安全を確認するなどの配慮が必要なのです。

つまり、運転手も歩行者もモラルと思いやりを持った行動をすることが、交通事故を防ぐことに繋がるのです。

これから私は、歩行者としても、自転車に乗る者としても思いやりやモラルを持った行動を心掛けていきたいです。具体的には、自転車では、左側通行や徐行運転などの交通ルールやマナーを厳守します。また、歩行者や車との距離を保つなど、周囲への配慮にも努めていきます。歩行者としては、無理な横断や歩きスマホは絶対にせず、積極的安全に努めます。また、暗い時間帯に外を歩くときは、暗闇でも目立つ服を着るなど、運転手の立場に立った安全対策にも留意します。そして、私が将来車を運転するときには、モラルと思いやりを持った愛情運転を心掛けていきます。